



碧南ロータリークラブ"週報"

第2337回例会 平成18年11月8日(水)

●会長 杉浦健次 ●幹事 石川春久 ●会場監督(SAA) 棚田道和

■例会日 毎週水曜日 12:30

■例会場 碧南商工会議所ホール

■事務局 碧南商工会議所内

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■会報委員 角谷信二・新美惣英・清澤聰之



2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ

LEAD THE WAY

率先しよう

できるひとが
できるときに
できるところで

● 齊唱

ロータリーソング「我らの生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

米山奨学生 徐 林杰君



杉浦健次会長

会長挨拶

「ローマは一日にして成らず」と申しますが、長期にわたる努力と歴史の結果あの偉大なローマ帝国は建設されました。ロータリーも100年を過ぎ、いろいろな角度から見直しを含め論議されているところでございますが、私は本年度の会長方針でも申し述べていますようにどんな時代になろうとも「原則+時流」に基づいた活動が大切であると思っております。次々年度創立50周年を迎える碧南RCも会員の皆様方の在籍年数をみると会員78名中20年以上在籍者は23名30%であり、残りの70%55名の内10年未満の方々は32名で全体の41%であります。本日は現役お一人となっていました碧南RCチャーターメンバーの中山寛三先生に「碧南ロータリーの歴史」と題して卓話を賜ります。先生のロータリー略歴は1959年(昭和34年)碧南RC入会、1962~64年の2年間幹事、1973~74年会長、1983年(昭和58年)第260地区(愛知、長野)分区代理1994年創立35周年実行委員長、2001年第2760地区、地区大会実行委員長等々を歴任され、もちろんポールハリスフェロー、ベネファクター、米山功労者でもあられ、真に碧南RCの歴史的な方であります。文献での伝承も大切でありますが"生の声"での語り継ぎは非常に大切であろうと思います。会員諸兄に於かれましては中山先生の元気なご示唆を心から深くお刻み頂きます事を祈念いたします。本日もよろしくお願い申し上げます。

幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は幹事報告の通り
- ・次週例会(11月15日)には平岩慶一名誉会員も出席されます。



委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 78名 (内出席免除者 14名) 出席者 61名

出席対象者 50/64名	出席率 78.13%
欠席者17名(病欠者0名)	前々回修正出席率 98.44%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 中山 寛三君 11月1日日本医師会の設立記念日に米寿の銀杯を貰いました。
本日は下手な卓話をさせて貰います。
- 神谷 研君 私の米寿を祝って日本医師会から銀杯を頂きました。
- 池田 弘孝君 碧南高等学校創立80周年記念式典が盛大に行われました。関係各位のご支援ご協力のお陰です。心から感謝申し上げます。
- 犬塚 敦統君 10月30日ISO22000取得出来ました。愛知ブランドもホームページに載せて頂きます。
- 鈴木 輝彦君 碧高創立80周年記念式典が無事終わりました。募金2,000万円目標のところ2,300万円集まりました。財務委員長としてホットしました。関係各位のご支援ご協力有り難うございました。
- 竹中 誠君 碧高創立80周年記念式典が無事に終わりました。池田弘孝様始め多くの方々に大変お世話になりました。
- 杉田 茂君 柳原 健さん、鈴木健三さんお世話になりました。
- 鈴木 健三君 杉田 茂さんにゴルフの厳しさを教えて頂きました。
- 黒田 泰弘君 先週末の岡崎ジャズ・ストリートでは、久しぶりにワクワクした1日を過ごすことが出来ました。すばらしいサウンドを聴かせてくれた新美雅浩さん有り難うございました。

〈社会奉仕委員会〉

- 社会奉仕委員会委員長 森田英治君
チャリティーバザーの物品87点のご寄付を頂きありがとうございました。今回ご寄付頂きました物品は11月11日・12日臨海体育館で開催される「第15回市民ふれあいフェスティバル」で販売され、その収益は社会福祉協議会の福祉事業に活用されます。

卓

話

「碧南ロータリークラブの歴史」中山寛三君

昭和34年、愛知県の16番目のクラブとして碧南RCが誕生しました。現在2700地区に81クラブありますが、16番目という事で相当古いクラブになります。裏話等詳しい事は、私は下端でしたので平岩初代会長が書かれた1周年記念誌に載っておりるのでご覧下さい。平岩会長の下、会員24名、スポンサークラブは刈谷RCで、刈谷RCの創立5周年記念で碧南RCは誕生しました。その時の特別代表はデンソーの林虎雄さんで、補佐で大田一造さんがよく来て頂いて指導してくださいました。その時のガバナーは四日市の九鬼紋七さんでした。4月8日に正式に国際RCに承認されました。9月27日にチャーターナイトを碧南高等学校の講堂で開くということで前日から準備しておりましたが、伊勢湾台風で交通機関が全部止まってしまい、会場のガラスも割れ惨憺たる状況になり、中止するか検討しておりましたが、延期するのはまたたいへんな事なので、当時のガバナー、浜松RCの山岸ガバナーが刈谷まで来ておられたので、林特別代表となんとか碧南に来て頂いて認証状だけは渡すということで、家が壊れて来られない人もおりましたが荒れくった会場でなんとか認証状だけは渡して頂きました。チャーターナイトはできませんでしたが、その時用意したお客様用のお弁当は、大正館に頼んで用意したが、水が胸の処まで浸水したということで残った弁当は被災者の方に皆配ったということを後から私は聞きました。



その当時の会員は今は二世の方がおみえになりますが、平岩さんはもちろんのこと、新美惣右エ門さん、倉内さん、太田さんと私の父親みたいな方たちがおられまして、太田徳二郎さんはRCができますと、だれにも相談せずに瀬戸でロータリーのマークの入った急須と湯飲み茶碗を作ってしまったり、社会奉仕として、番傘をたくさん買ってきて駅長を口説いて、傘のない人に大き

な字で碧南ロータリークラブと書いた傘を貸してやれと傘を置いてこられた。新美さんは怖いSAAでめしがまざいと怒る。名古屋あたりでおいしいものを食べて来ると太田さん倉内さんと三人組で大正館の大将の杉浦さんを連れて行って、「これ位うまい飯を作れ、とにかく飯がまずかったらロータリーの例会なんか出る気はせんぞ、この辺で一番うまい飯を作れ」と言って叱っておられた。何かあれば皆、すぐ三人組に叱られた。ところが、1年も経たないうちに太田さんは亡くなってしまった。あんまり人は叱ったりするものじゃないなと思いました。他の二人も早死にでした。

その当時、第360地区は7つの県にまたがっていた。富山で会合があると前日に行かなければ間に合わない。その日に帰ろうと思うと汽車がないということでまた泊まる。3日がかりの会合になってしまいました。私は発足してから3番目の幹事をやれと言われたが、自分が家に居らないと商売あがったり。そう休んでばかりおれないが、広い範囲で会合があったので困った事が多々ありました。新美さんに行って来いと言われると「はい」と言って行って来た、非常に優秀な会員であったと今は思います。昭和39年に国鉄に勤めてみえた服部さんがボイスカウトをつくりました。非常にいい事を若い人を集めてやっていると感心し、青少年の育成はロータリーだけではやれないということで、「ボイスカウトを応援していこう」という事で出来た時から応援しております。その後、服部さんの奥さんがガールスカウトを作ったという事で、これもまた今も応援しています。その他にはIGFといって、教育の場としてグループに分かれて若い会員に発言をしてもらうという事がありましたが、この頃は講演会になってしまって非常に簡単になりました。7県在ったものが昭和43年に第360地区は愛知県と長野県だけになりました。昭和49年に青少年交換学生を碧南クラブも行いまして碧南高校の岩本美紀子さんが米国に行き、米国からマイク・グリーンという高校生が来まして神谷研さんに預かって頂きました。残念ながら彼はあまり優秀ではなく、帰国しても手紙一つ来ないということで、碧南クラブとしてはこの事業はあまり感心できない印象を持ってしまい、その後はこの事業を行っておりません。昭和58年に18代の分区代理をやらせて頂きましてその時のガバナーが松本南クラブの奥沢ガバナーで東大の航空科を出た優秀な方でした。その当時、長野のガバナーとして愛知県に来ますと名古屋クラブが古いで、「名古屋クラブでいじめられる、よほど勉強してこないとやっていけない」ということで一生懸命勉強して乗り込んできました。この当時、すでに3年か4年前に、会長エレクトを置くようにと定款が改正されていたが名古屋クラブは必要なし、としていたので何処も置かなかった。ところが、奥沢さんは理論家で、名古屋クラブで、「定款が改正された以上実施すべきである」と言われ翌年から会長エレクトという制度が始まりました。また、自分のテリトリーをRIに届けるわけですが、あまり英語が得意でないとまちがったテリトリーを届けてしまいそのままになっている、それをRIに行って全部調べられ、奥沢ガバナーは指摘されました。昭和60年にポリオ・プラスが開始され、国際RC100周年の2005年までに世界からポリオを撲滅するということでポリオ・プラスを終結すると手続要覧に書いてありますが、私個人の意見としては、ポリオの撲滅はWHOの仕事で、23-34の社会奉仕の中に書いてありますが、ロータリーは自分にふさわしい事をやりなさい、自分が経済的にやれない事は提案しなさいと書いてあります。ロータリーの仕事としては大きすぎる。今までに何度もポリオ・プラスを終結すると言ってきたことか。昭和62年に地区が分割され愛知県だけの単独地区になりました。平成元年になってから第2760地区に変更になりました。平成3年に深津美香さんが国際親善奨学生に合格し米国に留学しました。ところがどうしたことか平成5年に2名平成6年に1名たてづけに国際親善奨学生に合格しました。ガバナーが、碧南には優秀な人がたくさん居るということで褒めておられましたが、国際親善奨学生になりますと一人2万ドル位使います。その後はありませんが、大学の学生課にロータリーのこの制度があるということを聞き、志願してきたと聞いておりますので、大学へこの制度を紹介することが良いのではないかと思います。平成12年2760地区の地区大会を碧南で開催しました。安城の番でしたが2つに分かれて都合が悪いということで断られ、急に碧南でと言われ会長が困っ

ておられましたが、「頼まれた以上やろう」ということで碧南で開催しました。それまでは名古屋のホテルにお願いして実施されておりましたが、碧南は地元でやろうという事で臨海体育館と衣浦グランドホテルを使って行いました。登録を受け付けたところ2400名、補助いすを使えば2400名はかるく入ると思っておりましたら消防署の方から2,000人入れたら危険です、災害があったら責任が持てないから入れてはいけないといわれたので当日は2,000人を切るからなんとかなるという説明で納得して頂くとともに、それならば消防署の方から警備に出てくださいとお願いして、制服で立って頂いた。それを見て碧南は随分用意がいいねと感心されました。開催日前3ヶ月は山口さんという事務の方が夜の9時10時と事務局に詰めて頂いて、幹事の杉浦さんも毎日事務局で準備をして頂いた。その時に感じた事は、碧南はしっかり事務をやっておるけれども、ぎりぎりまで登録の出欠席を頂けなかった。無責任極まりない話で、登録をしてくれば金額が違うということで、その修正で毎日のように夜遅くまでやっておられた。その時に一番ご苦労されたのはその時の幹事、杉浦健次君です。金は全部自腹でやって下さいということで、森田さんと新美孝さんと杉浦さんで東京の長谷川慶太先生の所へ頼みに行ってくださいましたがその金は一切ロータリーから出しておりません。最後に時間があまりございませんが資料の3ページに書いておきましたが、碧南RCが発足した当時、ガバナーが公式訪問に来られたときクラブアッセンブリーを行いました。その時ガバナーが会員あるいは委員長によく質問されました事を書いておきました。例えば「Per Capita Dues」と人頭分配金のことを質問されております。当時は1人半期に3ドルです。2006~7年は23.50ドルで年々RIに払うお金は上がっております。入会は量か質かという質問をされ逆にガバナーに向かってあなたは質がいいのかと嫌味を言われたガバナーもあります。ロータリーの60%主義は今でも活きておりまして例会は60分の60%の36分いなければ出席と見なされないということですが、最近はスピーカーのためにスピーカーが始める前に早退する人は出て行ってくださいというように目をつぶっているようですが本当は早く出て行った人は欠席になります。ロータリーの友は昭和28年に創刊されておりましたがRIはロータリーの雑誌とは正式に認めておりませんでした。従って入った当時はThe Rotarianを全員とらなければいけないということで、読めもしない英語の雑誌をとっておりました。手続要覧がロータリーの友に翻訳されたのが昭和30年だったそうですが、できた当時は手に入らず私が幹事をやった当時は殆ど英文で非常に困っておりましたが、昭和39年にパストガバナーがロータリー問答という本を出版され、はじめてロータリーとはどういうものか、例会を欠席したらどうしたらよいか等々色々な事が書いてあり、これを読んではじめてロータリーというものが解りました。時間がきましたので話を終わります。ありがとうございました。

次回例会案内 平成18年11月22日（水）
「忠臣蔵のうら・おもて」 花岳寺 住職 鈴木悦道氏